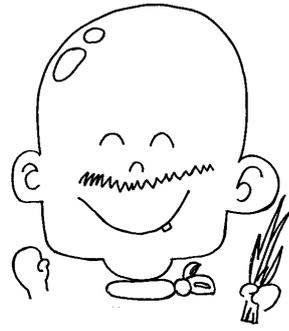


農大同窓会報

発行所
愛知県立農業大学校同窓会
岡崎市美合町字並松1-2
電話(0564)51-1601

編集発行人
同窓会長 柴田 隆夫
印刷所 (南)イヅミ印刷所
電話(0564)21-2657

ごあいさつ



会長 柴田 隆夫

昭和から平成、令和と元号が
変わり、昭和の長い期間を経験
した私には、3つの元号に渡り
生きることにとなるとは！という
思いがいたしました。

同窓会員の皆様には、日頃同
窓会活動に御理解、御協力いた
だきましてありがとうございます。
私事で恐縮なのですが、テレ
ビドラマは、まったく観ない人
だったのですが、今回の「朝ト
ラなつぞら」は、観ちゃって
います。なにしろあまりに無視で
きない設定なのです。

開拓地の柴田家、主人公が
なつ という少女。柴田とい
う姓が戦後の開拓地に生まれ、孫

の名が なつ なので・・・。

主人公役の広瀬すずさんの演
技も素敵なのですが、くぎづけ
にされるのは、草刈正雄さん演
じる柴田泰樹。圧巻の演技です。

開拓に挑んで成功を修めてい
る泰樹は、なつに生きることに
厳しき、苦しさそして夢や喜び
を教えて行きます。そして泰樹
自身もなつの生き様に影響を受
けて行くという内容。

アメリカの軍人をしていた父
親を戦死で亡くし、父親の写真
を全て焼かれ。母子家庭で、小
さい頃から新聞配達で家計を支
えるなどの苦労を経験した草刈
さんだからこそ、開拓一世の役
を見事に演じられるのでしょう。
魅せられます。

なつの成長で舞台は、東京の
アニメーションスタジオに移っ
てしまい。私的には残念だった
のですが、京アニ放火殺人事件
が起き、事態は一変。アニメー

ターという仕事が実は、世界中
のファンの心に届いていて、本
当に良い仕事は、国境を越えて
人々を感動させているという事
実を浮き彫りにしました。

被害者の方々には、心からの
御見舞いを申し上げます。

この原稿を書いている時点で
の事ですが、募金額が20億円を
超えて集まっています。

人の心を揺さぶる体験を感動
と呼ぶのでしょうか、心が動か
され、行動を(募金)を起こさ
せたという事で、まさに感動
を呼ぶ作品を世に送り出し続け
ていたのでしょう。

あまりの事なので、京都アニ
メーションの事を知りたくなっ
て調べてみました。

アニメーションの仕事は、決
まった日程と限られた予算の中
で、下請け孫請けのアニメー
ターを使い、長時間労働であり
ながら生活できないというのが
常態化している中で、京都ア
ニメーションは、完全自社製作
全員正社員制、徹底的な現地取
材と妥協のない作り込みを実現

していました。
この厳しいアニメ業界の中で
何故こんなことが出来ていたの
か？

手塚治虫プロの仕上げ作業か
ら始まり、地道に実績を積み上
げ、ジブリ作品に参加できるま
でになった技術力。自前の原作
で次々にヒットを生み出せる様
にまで構築した会社運営。自社
ブランドシヨップを持つまでに至
った製作販売体制。想像を超える
努力があったことが伺えます。



ごあいさつ

校長 友松 啓二

同窓会員の皆様におかれまし
ては、益々御健勝で、御活躍の
こととお慶び申し上げます。

また、日頃から、同窓会の役
員、理事並びに会員の皆様には、
本校の円滑な運営に対し、格別
なる御配慮と御協力を賜ってお
り、この場をお借りして、厚く
お礼を申し上げます。

私は、定年退職しました三浦
校長の後任として、この4月に
校長を拝命しました友松です。
副校長並びに教育部長としての
これまでの3年間の職務経験を
活かし、職員の連携強化により
組織力の向上を図りながら、農

グローバル化の中、厳しい環
境に置かれている農業が、どう
いう活路を見出し出していくの
か？ その解を求める上で、非
常にヒントの多い中味になっ
ていました。

難しい条件の中でも真摯に、
良い仕事に取り組み、長いス
パンで腰を据えて次世代の担
い手を育て行く。その事が時
代を生き貫く力になるのかなと、
つくづく思われました。

大の教育・研修機能の一層の強
化に努めてまいります。同窓会
の皆様には、今後も変わらぬ御
支援をお願い申し上げます。

農大では、教育部農学科の卒
業式を3月7日に挙行し、93名
の卒業生が、同窓会の仲間入り
をしました。卒業生のうち、農
業後継者で即就農した者は3
名、農業法人に雇用就農した者
は25名おりました。近年の非農
家出身学生の増加により、農業
法人との連携による適切な雇用
就農先の確保が、進路指導の重
要な課題となっています。

その他、研修後または一時就職後に就農予定の者も加えると就農者数は合計で41名となり、就農率は44%でした。なお、就職した者も、大部分がJAGグループを筆頭とする農業団体や農業関連企業に就職しております。農業関係のさまざまな分野に就農、就職した卒業生の、今後の活躍が期待されます。

また、4月11日には、教育部農学科の入学式を挙行しました。入学者数は97名で、全国に42校ある道府県立の農業大学校の中では、最も多い入学者数となりました。現在、2学年合わせて187名の学生が、全寮制のもとで、8つの専攻選考に分かれて農業の実践教育を受けています。

幸いにして近年では、受験者数が定員を上回る状況が続いておりますが、少子化が進行する中、農業に意欲ある入学者の確保が、重要な課題となっております。このため農大では、オンラインキャンパスの開催、農業体験型研修である緑の学園研修の開催や県内の高校訪問等、学生募集の取組を積極的に実施しております。同窓会員の皆様におかれましても、周囲に農業に関心がある高校生等がお見えでしたら、農大を紹介頂ければ幸いです。近年、ロボット技術や

ICT (情報通信技術) を活用した「スマート農業」が実用化されており、本校でも、時代の流れに即した農業教育を行うため、「スマート農業」のカリキュラムへの積極的な導入を進めているところ です。

その取り組みのひとつとして、本年度新たに、施設野菜専攻でトマトのICT温室を整備することとなりました。トマトの生育に最適となるよう、光、温度、湿度や炭酸ガス濃度をコンピュータで自動制御するもの、高品質化、高収量が可能になる次世代型の最先端のハイテク温室です。

加えて、酪農専攻のフリーストール牛舎の搾乳システム(ミルクキングパーラー)を20年ぶりに更新することとなりました。最新システムの導入により、毎日の搾乳作業の効率化が図られるとともに、牛の個体管理の徹底、衛生管理の徹底による出荷乳量の増加も見込まれ、学生の学習効果も高まります。

その他、企業の御協力により、ドローン等の最新鋭の機械類を、専攻実習で実演していただく予定としています。なお、御承知のとおり、本年2月以降、県内で豚コレラが多発しております。農大でも学生の教育用に豚を飼養しているため、様々な防疫対策を講じてい

るところです。御来校する皆様には、車両の消毒や靴底や手指の消毒をお願いしていただき、お手数をおかけして恐縮ですが、御協力をお願いします。結びに、時代の流れやニーズに即した農業教育・研修が実施できるよう、今後も、ソフト、ハードの両面から、積極的な検討・取組を進めてまいります。同窓会の皆様の今後とも変わらぬ御厚情、御支援をお願い申し上げます。私からの御挨拶いたします。

農業大学校同窓会名簿の購入御案内

平成26年11月に15年ぶりの新名簿を発行しました。まだ御購入されていない方は、是非とも御購入をお願いいたします。

名簿領価:1冊3,000円
(消費税、送料込。振替手数料は別途)
お問い合わせは同窓会事務局まで
(電話0564-51-1602)

◆平成三十一年度理事会だより◆

平成31年2月5日(火)午前10時30分から、平成31年度農業大学校同窓会理事会が中央教育棟研修室において開催されました。

柴田会長、三浦校長のあいさつの後、柴田会長を議長に選出して議事が進められました。

第一号議案 平成30年度事業報告については、同窓会報の発行、役員会・理事会の開催、卒業生への記念品贈呈などについて報告があり、異議なく承認されました。

続いて、第二号議案 平成30年度会計決算報告について説明

の後、審議に入りました。同窓会報の発送状況などの質疑応答の後、異議なく承認されました。

その後、第三号議案 平成31年度事業計画について、及び第四号議案 平成31年度会計予算について説明の後、審議に入り両議案とも異議なく承認されました。

最後に、第五号議案 理事の委嘱及び役員互選について、会計監事の稲吉理事の後任として鶴飼理事が就任することなどが、原案どおり承認され、全ての議事を終了しました。

お知らせ「農大だより」について

農業大学校では開かれた農大を目指して、「農大だより」を毎月発行し、各方面に配布し、本校ホームページにも掲載して広く公開しています。日頃の学習状況や学生の活躍、学校行事など様々な話題を写真とともに掲載しております。同窓会の皆様も是非ご覧ください。

本校ホームページ
「<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/noudai/>」
中の「農大だより」をご覧ください。
また、「愛知農大」で検索しても、ほとんどの場合に本校ホームページを見ることができます。

東海近畿ブロック
同窓会長会議報告

令和元年度の東海近畿ブロック農業大学校同窓会長会議が令和元年6月5日(水)から6日(木)にかけて、奈良県農業研究開発センターを会場に開催され、柴田会長が出席しました。

会議は、東海近畿ブロック農業大学校校長会議と合同開催され、初日の全体会議では、主催者・来賓あいさつの後、近畿農政局による情勢報告及びUED Aなつば工房上田味哥子氏による「新規就農者の育成に向けて」と題した基調講演が行われました。

その後、同窓会長会議の分科会議が開催され、同窓会の現状等について、活発な議論が交わされました。

次期理事会
開催のお知らせ

同窓会規約により、令和2年度は次のとおり開催予定です。で、理事の皆様は出席をお願いします。

日時 令和2年2月7日(金)

午前10時30分から

場所 愛知県立農業大学校
中央教育棟研修室

令和元年度
役員名簿

会長	柴田 隆夫(専八)
副会長	富永 康典(専八)
牧野 文彦(大研三)	野田 留美(大研一〇)
山田 博嗣(大専一)	鶴飼 里恵(大専一五)
会計監事	尾崎 芳弘(専四)
書記	伊藤 真二(大農二九)
事務局長	山田 守克(大専一〇)
顧問	山村 貴幸(大農二五)
名誉顧問	友松 啓二(校長)
	市川 幸生(元校長)
	長尾 周幸(校長)
	有澤 道雄(校長)
	大井 昌次(校長)
	武井 昭夫(校長)
	内山 公男(校長)
	稲葉三千夫(校長)
	鈴木 良憲(校長)
	木村 茂夫(校長)
	落合 秀彦(校長)
	村井 智子(校長)
	林 錡(校長)
	伊藤 茂樹(校長)
	犬飼 唯士(校長)
	山田 勝(校長)
	鈴木 敏之(校長)
	藤井 潔(校長)
	三浦 貞志(前校長)
	鈴木 吉地(前会長)

農学科の平成30年度
卒論発表会を開催しました!

平成30年度農学科卒業論文発表会を、1月10日(木)に開催しました。

農学科では、2年生全員が一人1課題以上プロジェクト活動に取り組んでいます。学生自らが農業を学ぶ中、また専攻実習に取り組む中で感じた疑問点や改善点を課題とし、テーマとして様々な試験を行いながら得られたデータを科学的に検証し、卒業論文としてまとめます。

卒論発表会はその成果の発表の場で、専攻毎に選ばれた2年生9名(今年度は養豚・養鶏専攻から2名発表しました)が10分間の発表を行います。各専攻では、発表のない学生も職員も練り返しリハーサルを行って発表内容や資料をチェックするなど、発表当日まで専攻全体で発表を作り上げていきます。

当日は、いずれの発表者も緊張しながらもそれまでの成果を出し切るべく、素晴らしい発表を行いました。

審査は、三浦校長始め4名の審査員が「発表内容」「発表方法及び態度」「質疑に対する応答」の各審査項目に基づいて実施し、最優秀賞1名と優秀賞2名を選出しました。

各賞の受賞者は以下のとおりです。



左から最優秀賞:秋山さん、優秀賞:水永さん、三浦校長、優秀賞:松本さん

最優秀賞・秋山美緒さん(養豚・養鶏専攻)「人工ほ乳器の活用による豚の生産性向上」

優秀賞・水永美優さん(作物専攻)「稲WCS専用品種栽培における窒素移植前処理を用いた施肥体系の検討」

優秀賞・松本悠真君(養豚・養鶏専攻)「採卵鶏の去勢雄による鶏肉生産の検討」

最優秀賞の秋山さんの発表は、養豚場で発生している問題を課題として、農家の助力を得ながら実際の養豚場で行った試験結果をまとめたものでした。その結果は本人の探究心を満たすだけでなく、協力していただいた養豚場にフィードバックすることで農場の改善に一役



「農業大学校学生研究及び意見発表会(全国大会)」の様子

買ったという農大のプロジェクトとしては新しい切り口の取り組みでした。審査委員長である三浦校長の講評では、限られた期間や条件の中での取組みに苦労したと思うが、工夫や頑張りが伝わってきたこと、どれもレベルの高い内容のある素晴らしい発表であったと本人や専攻の関係者に労いの言葉がありました。なお、最優秀賞の秋山美緒さんは「東海・近畿ブロック農業大学校学生研究及び意見発表会」に本校代表として参加し優秀な成績をおさめ、さらに平成31年2月に開催された「農業大学校学生研究及び意見発表会(全国大会)」でも入賞を果たし特別賞を受賞しました。

農業大学の近況

(人数は入学式時点)

1 概況

平成31年度の教育部農学科の学生数は1,2年生あわせて190名で、そのうち女子は49名で26%にあたり、ここ数年はほぼ同水準で推移しています。専攻別学生数は表1に示したとおりで、野菜の2専攻と果樹専攻、酪農専攻の学生数が多い傾向が続いています。また女子学生の20%は酪農専攻に在籍しており、女子における酪農人気は継続しているようです。

研修部ではUターンや他分野からの新規就農、離職者等再就職訓練を支援する長期間の就業支援研修を3つ開講しています。平成31年度は3研修で計55名が

表1 平成31年度農学科の専攻別学生数(4月11日現在)(単位:人)

専攻名	1年生	2年生	計
鉢物・緑花木	8 (2)	11 (1)	19 (3)
切花	11 (4)	10 (5)	21 (9)
作物	8 0	7 (3)	15 (3)
果樹	15 (4)	13 (2)	28 (6)
露地野菜	16 (3)	13 (2)	29 (5)
施設野菜	14 (2)	15 (4)	29 (6)
酪農	14 (5)	15 (5)	29 (10)
養豚・養鶏	11 (4)	9 (3)	20 (7)
	97 (24)	93 (25)	190 (49)

()内は女子の人数で内数

表2 農学科の入学生数の推移

入学年度	入学者数	女子学生数		農家子弟数	
		人数	割合	人数	割合
H26	92	24	26%	35	38%
H27	97	24	25%	26	27%
H28	106	33	31%	32	30%
H29	96	27	28%	34	35%
H30	95	25	26%	37	39%
H31	97	24	25%	32	33%

表3 農学科卒業生の進路状況

卒業年度		H26	H27	H28	H29	H30
就農	後継者	15	10	7	7	3
	農業法人	27	29	36	32	25
	一時就職後就農	4	1	4	4	10
就職計		46	40	47	43	38
就職		20	30	35	43	45
進学		3	2	2	6	3
その他		8	10	4	4	1
その他		7	3	1	6	6
計		84	85	89	102	93

女子学生は24名(25%)で、県内農業高校出身者は53名(55%)でした(表2参照)。

3 農学科卒業生の進路状況

本校では、1年生のうちから進路セミナー等を実施して、進路の方向付けや就職活動の支援する体制をとっています。平成30年度農学科卒業生の進路状況は表3のとおりです。93名の卒業生のうち、親元や農業法人など就職した者は、予定者を含めて38名で全体の41%にあたります。非農家出身の学生が増えていることもあり、就農者数のうちで農業法人への就農が増加・安定しています。また、就職した卒業生の多くは、農業関連企業や団体に就職しました。また、4名が海外研修(アメリカ)や進学などとなっています。

本校では職業安定法に基づく「無料職業紹介事業」を実施して、多くの農業法人等から求人をしていただき、学生の就農等を支援しています。同窓生の皆様からの求人をお持ちしております。

農学科各グループの近況

「花きグループ」

「鉢物・緑花木専攻」

ガラス温室や遮光ハウスなど約1500㎡の施設と600㎡の露地ほ場を利用して、鉢花、観葉植物、洋ラン、緑花木、花壇苗等100種類以上の品目を栽培しています。在籍者19名(2年生11名、1年生8名)のうち専業農家出身者は3名で、普通科高校卒業生も多くいます。

専攻実習では、1年生の6月に「鉢花、観葉植物、洋ラン、緑花木」の4つの部門に分かれ、学生の「新たな品目や技術にチャレンジしたい」などの意見や発想を積極的に取り入れることで、実習作業内容の充実を図っています。

本年度のプロジェクトのテーマとして、わい化剤の施用方法と花苗の商品性、人工光(LED)によるコチヨウラン栽培などに取り組んでいます。単なる調査にとどまらず、品質向上や低コスト化、省力化など農業経営の改善に繋がるよう取り組んでいます。

「切花専攻」約1500㎡の温室と300㎡の露地ほ場でキク、バラ、ストック、ヒマワリを主体に、カーネーション、ケイトウ、ベニバナ、ハイビスカスなど、10種類以上の植物を栽培しています。

本年度の在籍者21名(1年生11名、2年生10名)のうち、専業農家の子弟は9名います。1年生は、8月までに全ての品目の基礎的な栽培管理を学び、9月中旬から10月下旬までの農家派遣実習で鍛えられ、より逞しくなっています。派遣実習後に、キク、バラ、洋花の3



専攻実習では、1年生の6月に「鉢花、観葉植物、洋ラン、緑花木」の4つの部門に分かれ、学生の「新たな品目や技術にチャレンジしたい」などの意見や発想を積極的に取り入れることで、実習作業内容の充実を図っています。

専攻実習では、1年生の6月に「鉢花、観葉植物、洋ラン、緑花木」の4つの部門に分かれ、学生の「新たな品目や技術にチャレンジしたい」などの意見や発想を積極的に取り入れることで、実習作業内容の充実を図っています。

本年度のプロジェクトのテーマとして、わい化剤の施用方法と花苗の商品性、人工光(LED)によるコチヨウラン栽培などに取り組んでいます。単なる調査にとどまらず、品質向上や低コスト化、省力化など農業経営の改善に繋がるよう取り組んでいます。

「切花専攻」約1500㎡の温室と300㎡の露地ほ場でキク、バラ、ストック、ヒマワリを主体に、カーネーション、ケイトウ、ベニバナ、ハイビスカスなど、10種類以上の植物を栽培しています。

本年度の在籍者21名(1年生11名、2年生10名)のうち、専業農家の子弟は9名います。1年生は、8月までに全ての品目の基礎的な栽培管理を学び、9月中旬から10月下旬までの農家派遣実習で鍛えられ、より逞しくなっています。派遣実習後に、キク、バラ、洋花の3

「露地野菜専攻」1年生16名が加わり、2年生13名とあわせて計29名が在籍しています。露地畑1.5haでキャベツ、ハクサイ、ブロッコリーなど県内の主要品目を含めて約40品目を栽培しています。また、本専攻ではハウス内でイチゴの高設栽培も取り入れています。

昨年度は7月に全自動移植機を導入して、実際の生産現場と同様の機械化一貫体系を整えることができ、より実践的な実習によって技術習得に取り組んでいます。本年度は、簡易ハウスを利用した栽培品目の拡大や、重量野菜の生産安

部門に分かれて、2年生の秋までにプロジェクト学習に取り組みます。

実習で毎朝収穫した切花は、週2回(月、金曜日)、市内の花き市場に出荷する他、毎週水曜日に実施する実習販売では、学生がお客さんに直接、切花を販売することで接客方法やマーケティングを学んでいます。



「露地野菜専攻」1年生16名が加わり、2年生13名とあわせて計29名が在籍しています。露地畑1.5haでキャベツ、ハクサイ、ブロッコリーなど県内の主要品目を含めて約40品目を栽培しています。また、本専攻ではハウス内でイチゴの高設栽培も取り入れています。

部門に分かれて、2年生の秋までにプロジェクト学習に取り組みます。

実習で毎朝収穫した切花は、週2回(月、金曜日)、市内の花き市場に出荷する他、毎週水曜日に実施する実習販売では、学生がお客さんに直接、切花を販売することで接客方法やマーケティングを学んでいます。

部門に分かれて、2年生の秋までにプロジェクト学習に取り組みます。

実習で毎朝収穫した切花は、週2回(月、金曜日)、市内の花き市場に出荷する他、毎週水曜日に実施する実習販売では、学生がお客さんに直接、切花を販売することで接客方法やマーケティングを学んでいます。

部門に分かれて、2年生の秋までにプロジェクト学習に取り組みます。

実習で毎朝収穫した切花は、週2回(月、金曜日)、市内の花き市場に出荷する他、毎週水曜日に実施する実習販売では、学生がお客さんに直接、切花を販売することで接客方法やマーケティングを学んでいます。



部門に分かれて、2年生の秋までにプロジェクト学習に取り組みます。



本年度のトピックとして、地方創生交付金を活用してICTを装備したトマト用の温室を建設することが決定しています。2月頃の完成、

定のため、ほ場の遊休期間中に緑肥作物の作付けとプラソイラーによる深耕を行います。また、7月30日に大型トラクターが更新される予定ですので、作物専攻や酪農専攻と共用でほ場の耕起等の管理作業に活用していきます。

プロジェクト学習は実践的な栽培と収支等の経営管理を習得することとしています。本年度のテーマは「キャベツの根こぶ病防除試験」「スイートコーンのマルチの違いが生育、収量に及ぼす影響」などです。



知(129号)の栽培や、農機具メーカーと連携した密苗栽培などをテーマとして取り組み、高生産性及び付加価値の高い技術に

供用開始を予定しており、最新のICT温室を活用した実習が来年度から本校内でも本格的に稼働し始めます。

生産現場で急速に普及が進むICTに対応するため、環境制御技術を学生が習得できる施設整備を進めています。

【作物・果樹グループ】15名の学生(農家子弟は6名)で、1haの大区画水田をはじめ大小9区画、計3.3haの水田で、大型機械を利用して水稲、小麦、大豆の栽培に取り組んでいます。

1年生は水稲栽培に関する基本知識が身に付けられるよう実習を進め、2年生からプロジェクト学習に取り組み、卒論としてまとめいきます。そのため、2年生になると各学生にほ場を割り当て、担当学生が責任を持ってほ場の作業や栽培管理、生育調査等を行う体制としています。

無農薬・無化学肥料栽培や酒造好適米、飼料用稲の栽培法の検討、さらには農業総合試験場で開発中の低アミノス米(愛



テーマとして、「ハウスミカンの白色反射マルチと遮熱資材被覆による果実への影響」「シャインマスカットにお

ます。

また昨年は、JAあいち経済連の協力を得て、ラジコンヘリを使った薬剤散布の実演やドローンのデモ飛行を行いました。

【果樹専攻】本年度は、1年生15名と2年生13名の計28名の学生で、2.2haの露地ほ場においてブドウ、ナシ、モモ、カキなど県内主要品種を栽培しています。また、イチジク、ミカン、ブドウのハウス栽培も行われており、県内の果樹営農類型の多くを学生は学ぶことができます。

多様な樹種と栽培方式のため、開花期から収穫前の7月までは摘果や袋掛け、ホルモン処理など管理作業のため学生たちは多忙な毎日を経験します。7月に入ると順次収穫が始まりますが、いずれの果実も実習販売では人気商品で、買い求めるお客様の列が絶えません。

学生は、入学当初は数多くの樹種の基本的な技術を学びますが、プロジェクト学習ではテーマを決めてより専門的な知識・技術を習得します。本年度の



イン共進会への牛の出品に興味を持っており、本校OBの酪農家の助言を受けつつ、出品候補牛の管理や調教を行って

けるクラスタリ液剤散布が房形及び果実品質に及ぼす影響」などが取り組まれています。

【畜産グループ】1年生14名と2年生15名の学生(うち女子学生は10名で最多)で、乳牛約25頭、肉用牛約30頭など計80頭前後を飼養しています。また、約45haのほ場でコーンや牧草など自給飼料生産も行っています。

1年生の多くは非農家出身者で、大部分が本校に入学して初めて牛に触れることになり、2年生の助言を受けながら飼養管理技術を身に付けていきます。土日や祝日、夏休み等の休業日は、当番学生だけで管理をするため、作業の工夫や協力的体制など学生同士の助け合いの精神が育まれ、専攻内の結束力が強くなっています。

本年度のトピックとして、念願であったミルクングパーラーの更新があげられます。これによって、個体管理や衛生管理等での効率化と修繕費の大幅な削減が期待されています。

また、学生たちはホルスタ



最近、県外出身者や農家子弟の学生が増え、本専攻に対する評価と期待の高さがうかがわれます。

【養豚・養鶏専攻】1年生11名を迎え、養豚コース10名と養鶏コース10名の計20名の在籍となっています。本年2月に県内で豚コレラが発生したため、養豚コースでは防疫対策には細心の注意を払うとともに、本校全体でも、出入り車両の消毒、来校者の靴底・手指の消毒などをお願いしています。

養豚コース(繁殖母豚20頭)では、母豚の発情を同期化することにより計画的な飼養管理体制を構築して、学生を中心に農場全体を運営しています。さらに、自農場の衛生状況を把握するとともに、衛生管理技術の習得にも積極的に取り組んでいます。

養鶏コースでは、昨年度試験導入した「岡崎おうはん」を10月に再導入します。黒地に白横斑の珍しい外観の鶏で、卵黄の大きさが特徴で実習販売では固定客がづく人気です。昨年度の卒論で卵質の改善点が明らかになったので、この結果を活かして1年生がさらに引き継ぐ予定です。

農大祭

農大祭2018 今回も大盛況

「農大祭2018」を平成30年12月1日(土)午前10時から午後2時まで農業大学校において開催しました。

当日は、午後に少し曇が出てきた程度で、概ね天候にも恵まれ、およそ三千二百名と多くの方に来場いただきました。



各専攻の農産物直売ブースでは、午前10時の販売開始前から多くの方が並ばれ、お目当てのものを手に入れようと、熱気に包まれていました。特に例年人気の鉢物・緑花木(シクラメン、アンズリウム、シンビジウム、コチョウラン等)には、午前8時45分の整理券配布から、長い行列ができていました。



直売ブース

学生が丹精込めて育てた農産物の直売も午前10時の販売開始前から長蛇の列ができ、お目当ての物を買おうとする熱気に包まれ、学生たちも自ら育てた農産物を元気に販売していました。



直売ブース



農大キャンパスツアー

また、午前・午後の2回に分けて実施した農大キャンパスツアーでは、10代から80代という幅広い年齢方、併せて138名の参加者があり、広い実習ほ場等に説明の音が響いていました。



食品バザー

ム、フランクフルトなども買求める来場者の行列ができました。

農大祭2019を待ちしています。今年も12月7日(土)に「新農大へのstep up」をテーマに農大祭を開催します。



企業ブースのトラクタ展示を楽しむ親子連れ



茶席ブース

た。参加者からは面白かったとか農大のことがよくわかったといった声が聞かれました。さらには、茶道部による農大茶席、環境クラブ教室、協賛団体・企業の出展ブースにも多くの方が訪れ、大盛況の農大祭となりました。

例年どおり農産物の販売や各種バザーなどの取り組みを通して、愛知県の農業の魅力と大切さを伝えていくとともに、地域の皆様に農業大学校を身近に感じて、楽しんでいただけるよう学生が中心となり準備を進めています。

多くの皆様のご来校をお待ちしています。

農大祭2019への協力金について

農大祭実行委員会では、同窓会会員の皆様からの協力金を募っております。ぜひとも皆様の御協力をお願いいたします。

●協力金の金額

1口1,000円

(1口以上でお願いします。)

●振込先

金融機関 あいち三河農業協

口座名義 同組合 美合支店

農大祭実行委員会

会長 友松啓二

口座番号 普通

0036083

●振込期限

令和元年11月13日(水)

※振込でご協力をいただく場合は、御氏名の前に「同窓会

ドウソウカイ」とご記入ください。

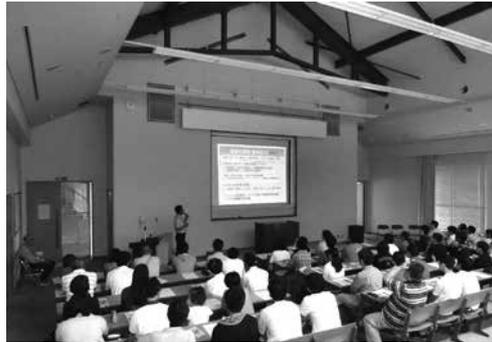
※金融機関の窓口で振り込まれる場合は、各金融機関の振込依頼用紙を御利用ください。

オープンキャンパス2019
「農大発見の日」と「サマーキャンパス」を開催

令和元年6月8日(土)、15日(土)に「農大発見の日」、7月31日(水)、8月7日(水)、28日(水)に「サマーキャンパス」をそれぞれ開催しました。農業大学校への入学に関心のある方々を中心に対象としたもので、多くの高校生等の生徒、保護者や一般の方々の参加がありました。県内はもとより岐阜県、三重県のほか、埼玉県や静岡県、鹿児島県からお越しいただきました。



キャンパスツアー(和耕寮内見学)



概要説明を聞く参加者

業をやりたいという子供の意思を後押ししても良い環境でした。」といった感想が寄せられました。

東海近畿地区農業
スポーツ大会に参加しました

令和元年度東海近畿地区農業高等学校学生スポーツ大会(三重大会)が、5月30日から2日間、三重県サンアリーナ(伊勢市)及び県営大仏山公園(多気郡)に9校の学生が集い、スポーツ競技を通じた交流活動が行われました。この大会は、スポーツを通じて連帯意識と学生の健全な活動を助長し、たくましい次代の農業を背負う担い手を育成することを目的として、30年以上の歴史をもつ大会です。本校からは、74名の学生が、野球、バスケットボール、バレーボール、テニス、バドミントン、卓球の6種目に分かれ出場しました。

多く参加し、豊富な競技経験を活かした質の高いプレーや試合運びは、他県の選手を圧倒しており、愛知農大の選手層の厚さを感じました。競技が終了した後は、チームの垣根を超え混成チームで試合を行い時間の許す限りお互いの親睦を図りました。大会に参加した学生は、他府県の学生と交流を深めただけでなく、選手、マネージャー、学生会や写真部など学生同士の絆も深まりました。次年度の京都大会での活躍を期待しています。最後に、大会の準備や運営に当たった三重県立農業大学の学生・職員の皆様に深く感謝申し上げます。

本校学生の奮闘結果

団体	優勝	野球、バレーボール、テニス
	準優勝	卓球、バドミントン
	3位	バスケットボール
個人	優勝	卓球女子W、バドミントン男子W バドミントン女子W、テニス男子W
	準優勝	卓球男子W
	3位	テニス男子S



バレーボール:ポイント先取で盛り上がる



野球:農大の攻撃



閉会式後の集合写真

オーストラリアへの 海外派遣研修を実施しました

本校では、海外の農業生産・流通現場を知り、海外の農業者との交流により、農業の国際情勢に関する見識を深めることを目的とした海外派遣研修を2年生対象に実施しています。

平成31年1月26日(土)から2月2日(土)までの8日間、2年生87名がオーストラリアシドニー近郊のホークスベリー地区を中心に農業研修及び関連施設の視察を行いました。

農業研修では、野菜・果樹・花き・酪農関係の農家に分かれ、日本の農業や文化の違いを体験しつつ、3泊4日のファームステイを行いました。ホストファミリーとの対面式では、学生代表の吉澤紅里さん(養豚・養鶏専攻)が英語で大阪なおみ(プロテニスプレーヤー)ばり



ファームステイ(パプリカの収穫)



視察(フレミントンマーケット)



ファームステイ(肥育牛の管理)

の挨拶をし、会場の雰囲気をもてなしてくれました。翌日から、農業実習が始まり、野菜農家でカボチャやパプリカの収穫、果樹農家でワイン用ブドウの管理作業、花農家で花壇苗やヤシの移植作業、酪農農家で搾乳、給餌、去勢などを行いました。実習が終わった後は、ホストファミリーの方とバーベキューや市内の散策に出かけ交流を深めていきました。この4日間で学生たちは、オーストラリアと日本の農業の違い、共通する部分を肌で感じ取りながら、真夏の炎天下での実習に励んでいました。また、宿泊生活では、水事情が



記念撮影(ミセスマッコリーズポイント)



講義(西シドニー大学)

ミリーの方とバーベキューや市内の散策に出かけ交流を深めていきました。この4日間で学生たちは、オーストラリアと日本の農業の違い、共通する部分を肌で感じ取りながら、真夏の炎天下での実習に励んでいました。また、宿泊生活では、水事情が

厳しい現地での生活に不便さを感じながらも、農業には欠かせない水の大切さを学んだことと幸いです。

ホストの代表者から「愛知県立農業大学の学生は礼儀正しく何事にもまじめに取組むので評判がいい」とのうれしい評価をいただきました。

農業関連施設の視察では、南半球唯一の規模を誇る中央卸売市場のシドニー・フレミントンマーケットを訪れました。相対取引の模様や物流、保冷施設、スイカ、トマト、ナス、カボチャなど季節を彩る青果物が箱売りで所狭しと並べられている光景を眺めながら現地ガイドの説明に耳を傾けていました。

西シドニー大学では、持続可能な農業、小規模農家に対して情報提供する研究、ガラス温室での縦型栽培やCO₂濃度の効果的影響などについて大学教授と先進農家の2名の講師から講義を受けました。

シドニー市内散策では、代名詞ともいえるオペラハウスやハーバーブリッジ、ロックスマーケットなどオーストラリアの街並み、歴史や文化にも触れることができました。

研修を終え、学生が提出した研修レポートには、「オーストラリア人の人柄、その土地での農業のありよう、文化の違いな

ど直接肌に触れることができ有意義な一週間でした。「オーストラリアでは、接ぎ木をするのにも資格が必要」など学生にとって充実した海外研修であったと感じられます。研修に出かける前は何となく乗り気ではなかった学生からも行つてよかった、是非行くべきとの感想が寄せられ、この年代で海外の事情を学ぶようなプログラムに参加することの意義の大きさを改めて感じました。この経験が、就農や就職に活かされることを期待しています。



シドニー観光(ロックスマーケットで買い物を楽しむ学生)



視察研修(露地野菜農家)

研修部の各種研修紹介

研修部では、農業者が社会情勢の変化と進歩する農業技術に対応するための研修と、一般県民が愛知県の農業を理解するための研修を年間を通して実施しています。今年度実施する研修の定員総数は約三千五百名ですが、研修によっては可能な範囲で受入れを増やしています。

「1 農業者生涯教育研修」

農業を担うべき者を対象に、農業者の発展段階に合わせた研修を行っています。担い手の確保を目的とした研修は、新規参入を含む新規就農者を対象とした「ニューファーマーズ研修」、主に農業以外の



雇用創出農業研修

分野からの新規就農希望者を対象とした「農業者育成支援研修」、公共職業安定所長から本校での農業研修受講の指示又は受講推薦等を受けた離職者を対象に、農業の基礎的知識・技術を習得する「雇用創出農業研修」を実施しています。

高校生を対象に、農業及び農大に対する関心を高める「緑の学園研修」は、農大では一日農業体験学習を実施しています。

また、農業者の経営発展を目的とした研修としては、必要とする知識・技術をタイムリーに習得する「経営管理研修」、「生産高度化研修」、「農産物利活用研修」を実施するとともに、平成30年度から引き続き、農業者が営農しながら体系的に経営を学べる場として「愛知農業次世代リーダー塾」や、経営改善効果が期待できる「GAP研修」を開講し、本県農業を牽引する優れた経営感覚を備えた農業者の育成を図っています。

「2 農業機械研修」

農業機械研修は、農業を担うべき者を対象に、農業機械に関する知識・技術修得を目的とし



大特免許研修

た研修を実施しています。

免許を取得する「大特免許研修」、「けん引免許研修」の他、研修修了証が取得できる「小型車両系建設機械研修」、「フォークリフト研修」、「アーク溶接研修」、「刈払機研修」等を実施しています。

農業機械に関する研修は、免許や研修修了証の取得に直結するだけでなく、安全で効率的な農作業に不可欠であるため人気が高く、中には受付開始初日で定員に達する研修もあります。

「3 農業理解研修」

県民が、愛知県の農業や食料に関する正しい知識を得て、農業・農村への理解と関心を深めるための研修です。本年度の「県民公開講座」は、

「親子で学ぶあいちの農業」として、小学生とその親を対象に、ほ場見学や収穫体験、料理実習を通して農業をよく知ってもらう研修を農大で実施しています。

この他にも「農業ふれあい研修」として、小学校教諭を対象に、野菜づくりの基礎知識を習得して授業に役立ててもらおう研修や、小学校の授業で野菜の栽培実習を行う出前授業を実施しています。

また、園児や小学生等が農大の生産施設見学を通じて農業に親しみ、理解を深めてもらっています。



親子で学ぶあいちの農業

令和元年度に研修部が実施する各種研修一覧

研修名		回数	定員
農業者生涯教育	緑の学園	5	150
	ニューファーマーズ	—	20
	農業者育成支援	—	15
	雇用創出農業	—	30
	経営管理	5	370
	生産高度化	11	1,100
	農産物利活用	3	60
	GAP研修	2	120
	女性農業者支援研修	1	20
愛知農業次世代リーダー塾	—	20	
農業機械	大特免許	7	122
	けん引免許	2	30
	大型トラクター作業	1	15
	小型トラクタ利用(初心者向け)	3	44
	小型車両系建設機械	2	52
	フォークリフト	2	56
	アーク溶接	1	24
	刈払機	1	24
農業理解	県民公開講座	4	128
	農業ふれあい	—	1,105
合計		—	3,505



平成三十年度卒業式

愛知県立農業大学校教育部農学科第34回生の卒業式が、平成31年3月7日(木)午前10時30分から、多数の御来賓の方々の御臨席をいただき、中央教育棟大講義室において盛大に挙行されました。

式では、卒業生を一人ひとり呼名し、代表者に校長先生から卒業証書が授与されました。

引き続き行われた表彰式では、農業大学校同窓会全国連盟会長始め各賞の表彰が行われ、16名が表彰を受けました。

また、同窓会からの記念品として、柴田会長が卒業生全員にピンバッジと印鑑を贈呈しました。

表彰状授与者

優秀賞

〔愛知県知事賞〕

関 博司 教育部農学科

切花専攻

〔大学校長賞〕

大崎 直人 教育部農学科

酪農専攻

成瀬のどか 教育部農学科

施設野菜専攻

後藤 廉 教育部農学科

養豚・養鶏専攻

水野希美華 教育部農学科

切花専攻

農業大学校同窓会全国連盟会長賞

幾田 礼仁 教育部農学科

作物専攻

全国農業大学校協議会長賞

藤原 彩 教育部農学科

酪農専攻

精励賞

〔大学校長賞〕

高橋 昌太 教育部農学科

鉢物・緑花木専攻

田中 昌己 教育部農学科

切花専攻

杉浦 京平 教育部農学科

作物専攻

山本 純也 教育部農学科

果樹専攻

坂田 利正 教育部農学科

露地野菜専攻

中野 貴仁 教育部農学科

施設野菜専攻

井本 名美 教育部農学科

酪農専攻

渡邊奈津美 教育部農学科

養豚・養鶏専攻

特別賞

〔大学校長賞〕

秋山 美緒 教育部農学科

養豚・養鶏専攻

農業大学校の職員

(令和元年七月一日現在 ○印は異動の職員)

校長 友松 啓二

副校長 堤 公生

〔管理課〕

課長 吉野 雅信

主幹 小久保和夫

主任主査 柴山 明子

主査 富田 祐二

主事 榎 千鶴

○再任用 小林 裕

○非常勤 清水 常次

〔教育部〕

○部長 黒田 貴信

(学務科)

○科長 山本 弘司

○総括専門員 伊藤 正美

主任専門員 鈴木 聡

○主事 小椋 瑞輝

再任用 伴 浩志

再任用 坂口 卓司

非常勤 小林 和夫

非常勤 山下 篤

非常勤 辻 邦夫

○非常勤 山本 正美

(農学科)

○(兼)科長 黒田 貴信

科長補佐(花きG班長)

野田 輝夫

○主任専門員 坂場 功

○主任専門員 近藤 満治

○主任専門員 田中 良子

主任専門員 野村 浩二

非常勤 鶴田 瑞穂

科長補佐(作物果樹G班長)

横井 信之

主任専門員 平 晋一郎

技師 佐野 達也

○技師 古川 恵

非常勤 沓名 真穂

科長補佐(野菜G班長)

山本 厚

○主任専門員 加藤 陽一

主任 榎本 剛士

主任 安永美紗子

技師 宮田 将和

再任用 中西 英人

科長補佐(畜産G班長)

中谷 洋

主任専門員 川上 幸裕

主任専門員 山本るみ子

主任専門員 渡邊 久子

専門員 西村 岳

再任用 柳澤 淳二

非常勤 増田 結

〔研修部〕

○(兼)部長 堤 公生

(就農支援科)

○科長 齋藤 哲男

主任専門員 河野真砂子

技師 石本 聖絵

再任用 梶田 靖

非常勤 中村 彰

非常勤 野村 芳江

(担い手支援科)

科長 柴田 博之

○主任専門員 落合 敏弘

専門員 菰田 園子

○再任用 野々山利博

非常勤 福井 敏幸

大澤 史季

平成30年度 会計決算報告

1 平成30年度 一般会計収支決算

(単位 円)

収入総額	支出総額	差引残額	備考
2,565,499	1,703,666	861,833	自平成30.1.1 至平成30.12.31

(次年度へ繰越)

収入の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	比較増減額	備考
会費	2,040,000	2,040,000	0	農学科102名 (@20,000円)
雑収入	10	10	0	預金利息 30.2.18 3円 30.8.19 7円
理事会清算金	0	3,000	3,000	1名欠席 弁当代:1,000円 記念品料:2,000円
繰越金	522,489	522,489	0	
計	2,562,499	2,565,499	3,000	

支出の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	差引残額	備考
全国連盟会費	68,364	68,364	0	会員割20,000円 学生1名500円×95名 振込手数料864円
支部活動費	10,000	0	10,000	
技術部会活動費	21,296	10,648	10,648	果樹技術部会 (はるき会)
旅費	90,000	64,330	25,670	東海近畿ブロック同窓会長 会議(30.6.5~6)、全国連盟 総会(30.7.11)旅費
事務用品費	40,000	0	40,000	
会報発行費	740,000	732,745	7,255	同窓会報第34号 印刷・発送
会議費	110,000	118,257	△8,257	役員会1回 30.1.19 理事会1回 30.2.6開催費 (旅費、昼食代、記念品料等)
賃金	10,000	0	10,000	
記念品費	265,200	157,088	108,112	卒業生記念品 (印鑑付ダブルペン、 図書カード)30.3.8
表彰費	70,000	21,770	48,230	高感度電波掛時計20,550円 郵送料1,220円
個人情報業務委託費	130,464	130,464	0	会員データ年間管理料129,600円 振込手数料864円
交際費	10,000	0	10,000	
繰出金	400,000	400,000	0	名簿作成基金 200,000円 創立記念基金 200,000円
予備費	597,175	0	597,175	
計	2,562,499	1,703,666	858,833	

2 平成30年度 名簿作成基金会計収支決算

(単位 円)

収入総額	支出総額	差引残額	備考
1,032,477	360	1,032,117	自平成30.1.1 至平成30.12.31

(次年度へ繰越)

収入の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	比較増減額	備考
繰入金	200,000	200,000	0	一般会計から
預金利息	5	8	3	30.2.18 4円 30.8.19 4円
名簿収入	12,000	6,000	△6,000	名簿売上(2冊)
繰越金	826,469	826,469	0	前年度より繰越
計	1,038,474	1,032,477	△5,997	

支出の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	差引残額	備考
郵送費	0	360	△360	名簿発送(1冊)
予備費	1,038,474	0	1,038,474	
計	1,038,474	360	1,038,114	

3 平成30年度 創立記念基金会計収支決算

(1)普通預金

(単位 円)

収入総額	支出総額	差引残額	備考
2,279,761	0	2,279,761	自平成30.1.1 至平成30.12.31

(次年度へ繰越)

収入の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	比較増減額	備考
繰入金	200,000	200,000	0	一般会計から
預金利息	15	18	△3	30.2.18 9円 30.8.19 9円
繰越金	2,079,743	2,079,743	0	前年度より繰越
計	2,279,758	2,279,761	3	

支出の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	差引残額	備考
予備費	2,279,758	0	2,279,758	
計	2,279,758	0	2,279,758	

(2)定期預金

(単位 円)

収入総額	支出総額	差引残額	備考
500,497	0	500,497	自平成30.1.1 至平成30.12.31

(次年度へ繰越)

収入の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	比較増減額	備考
預金利息	100	85	△15	30.2.5 85円
繰越金	500,412	500,412	0	前年度より繰越
計	500,512	500,497	△15	

支出の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	差引残額	備考
予備費	500,512	0	500,512	
計	500,512	0	500,512	

平成31年度 会計予算

1 平成31年度 一般会計収支予算 収入の部

(単位 円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備 考
会 費	1,860,000	2,040,000	△180,000	農学科93名
雑 収 入	10	10	0	預金利息
繰 越 金	861,833	522,489	339,344	前年度より繰越
計	2,721,843	2,562,499	159,344	

支出の部

(単位 円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備 考
全国連盟費	67,364	68,364	△1,000	会員割 20,000円 学生1名 500円×93名 振込手数料 864円
支部活動費	10,000	10,000	0	5,000円×2支部
技術部会活動費	21,296	21,296	0	10,000円×2部会 振込手数料 648円×2
旅 費	90,000	90,000	0	東海近畿ブロック 会議、全国連盟総会 の出席旅費
事務用品費	40,000	40,000	0	文具等
会報発行費	740,000	740,000	0	同窓会報発行・発送
会 議 費	120,000	110,000	10,000	役員会、 理事会開催費
賃 金	10,000	10,000	0	
記念品費	241,800	265,200	△23,400	卒業生記念品代 @2,600円×93人
表 彰 費	70,000	70,000	0	同窓会員の 表彰記念品代
個人情報業務委託費	130,464	130,464	0	会員データ年間管理料 129,600円 振込手数料 864円
交 際 費	10,000	10,000	0	
繰 出 金	400,000	400,000	0	名簿作成基金 200,000円 創立記念基金 200,000円
予 備 費	770,919	597,175	173,744	
計	2,721,843	2,562,499	159,344	

2 平成31年度 名簿作成基金会計収支予算 収入の部

(単位 円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備 考
繰 入 金	200,000	200,000	0	一般会計から繰入
預金利息	5	5	0	
名簿収入	6,000	12,000	△6,000	
繰 越 金	1,032,117	826,469	205,648	前年度より繰越
計	1,238,122	1,038,474	199,648	

支出の部

(単位 円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備 考
予 備 費	1,238,122	1,038,474	199,648	
計	1,238,122	1,038,474	199,648	

3 平成31年度 創立記念基金会計収支予算

(1)普通預金 収入の部

(単位 円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備 考
繰 入 金	200,000	200,000	0	一般会計から繰入
預金利息	15	15	0	
繰 越 金	2,279,761	2,079,743	200,018	前年度より繰越
計	2,479,776	2,279,758	200,018	

支出の部

(単位 円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備 考
予 備 費	2,479,776	2,279,758	200,018	
計	2,479,776	2,279,758	200,018	

(2)定期預金 収入の部

(単位 円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備 考
預金利息	100	100	0	
繰 越 金	500,497	500,412	85	前年度より繰越
計	500,597	500,512	85	

支出の部

(単位 円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備 考
予 備 費	500,597	500,512	85	
計	500,597	500,512	85	

事務局から

毎年「同窓会報」を発行するに当たり、住所不明等で多数の会員に会報が届いていません。会員の皆様で、住所や姓が変わるなど状況に変化があった場合、他の会員も含めて、その状況を事務局までお知らせください。

また、同窓会報の内容は農大ホームページの中の同窓会のページで見ることができます。

会員様の中でホームページを見るから同窓会報の送付を経費節約のために止めていただいて結構と言われる方がおみえになりましたら、送付不要を希望される場合のみ、官製はがきにその旨を書き、住所氏名を記入し、10月31日までに農大事務局にご送付ください。その方のみ次号から送付を止めさせていただきます。

愛知県立農業大学校 同窓会事務局
同窓会長 柴田 隆夫

〒444-0802 岡崎市美合町字並松1の2
電話 (0564) 51-1602 F A X (0564) 51-4831

会員データについて

愛知県立農業大学校同窓会は株式会社廣済堂へ会誌の発送業務を委託いたします。その際、お預かりする個人情報（個人情報保護法に定める日本の法令その他の規範を遵守して、左記目的の範囲でのみ利用いたします。）

株式会社廣済堂の個人情報取扱について

● いただいた個人情報は、以下の目的で使用いたします。
・ 学校ならびに同窓会からの通信文書および名簿の発送
・ 同窓会が本来目的により活動する場合、必要と思われる作業を進行する際など合法的な目的のために活用する場合
(同窓会側に準じます)

● 提供いただいた個人情報については、株式会社廣済堂情報「コミュニケーション」メディア事業部データベーク（以下弊社）が責任をもつて管理いたします。
● 弊社は、当社が信頼に足ると判断した外部の企業に、個人情報のデータ処理ならびに発送作業を委託することがあります。

● 提供いただいた内容は、本人の承諾なしに学校・同窓会関係者以外の第三者に開示することはありません。
● 個人情報は原則として本人にかぎり、開示、訂正、削除を求めることができます。